

視点

第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会の開催について



福島県医師会

常任理事 土屋 繁之

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から5年が過ぎた。振り返れば震災直後の福島県は「何をどうすればいいのか」全くわからない状況に置かれていた。そのような中、全国各地よりDMATが来県し急性期災害医療支援をして下さった。また、まだ十分な準備ができていなかったJMATも日本医師会が積極的に当地へ派遣して下さい、現地医療復興へ向けて多大なご支援を頂いた。今は普通に過ぎた思い出のようであるが、手探りの中日本医師会、県医師会が最速・最善な連携を取れたことは奇跡的であり、石井正三日本医師会常任理事と高谷雄三県医師会長の常日頃からの“顔が見える関係”が重要な要因であったことは忘れてはいけないことであろう。

さて、この度本会高谷雄三会長が第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会の大会会長に就かれることとなり、今年5月12日(木)から14日(土)の3日間、郡山市にあるビッグパレットふくしま、ホテルハマツを会場として開催

される。この大会は救急医療に関わる医師・看護師・救急救命士などが毎年一堂に会して開催されている。大会会長に県医師会長が就任することは19回を数えるこの大会で初めてのことであり、5年前の大震災以降福島県医療復興に多大な功績を残された高谷会長に対する医療界の敬意の表れである。この榮譽を受けて私ども福島県医師会員はこの大会が成功裏に終われるよう万全の態勢を整え、一人でも多くの会員が参加しなければならないと思う。どうか多くのご支援と学会参加をお願いしたい。

日本臨床救急医学会について

日本臨床救急医学会は、1998年(平成10年)、医師をはじめ看護師や救急隊員など救急医療に実際携わっている職種が同じ立場で救急医学・医療体制のあるべき姿を求めて議論する場として誕生した。会員は医師、看護師、救急隊員、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、メディカルソー

シヤルワーカー、医療事務など様々な職種、職域の方々により構成されており、会員数は約4,000名で、年に一度いろいろな職種の方が一堂に会し、活発な議論を交わしている。今回で19回を数えるが歴代会長は日本を代表する救急医療関係者がその任に就いている。

これまでの経緯について

平成26年3月に日本医師会常任理事石井正三先生より、東日本大震災より5年が経過する節目の今年、日本の救急医療に大きく貢献している本大会を福島県で開催すべきである。高谷会長を大会会長として是非医師会をあげて開催して欲しいとの要請が福島県医師会に届いた。本会がこのような全国規模の大会を開催することは初めての経験であり、十分な対応ができるかどうかわからなかったが、その榮譽を受けて本大会を開催することは、福島県の現状を全国の皆さんに知って頂けることであり、福島県にとっても本会にとっても貴重なチャンスと判断し開催する運びとなった。福島県立医科大学医学部救急医療学講座 田勢長一郎教授へご相談したところ快諾を頂けたことをご紹介し、田勢教授には会員一同から感謝申し上げたい。

学術集会を開催するにあたり、メインテーマをどうするか検討を重ねた。そして今こそ“災害被害当事者”から離れるべきという結論に至り、間近に迫った2020年東京オリンピックを見据え『救急医療と Mass gathering medicine』とした。また特別講演には公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会事務総長 武藤敏郎様より「東京2020大会を成功させるために」と題しご講演を頂く。また、日本医師会長 横倉義武会長からも「地域における救急医療」と題しご講演を頂く予定である。

開催プログラムについて

上記特別講演のほか、次のとおり救急医療関連に限らず様々なテーマを取り上げたいと考えている。是非とも会員の皆さまやスタッフなど多数の参加をお願いしたい。

尚、参加申込は下記本学会ホームページより事前参加登録して頂きたい。

○第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会
ホームページ

URL <http://www.fukushima.med.or.jp/19JSEM/>



第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会

第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会

会 長 高 谷 雄 三

(福島県医師会 会長)

副会長 田 勢 長一郎

(福島県立医科大学 特命教授)

顧 問 石 井 正 三

(日本医師会 常任理事)

第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会について下記のとおり開催いたしますので多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

会 期：2016(平成28)年5月12日(木)～14日(土)

5月12日(木)に理事会・評議員会を開催予定。

会 場：ビッグパレットふくしま (福島県郡山市) 及びホテルハマツ

5月12日 学術集会・全国メディカルコントロール協議会連絡会・
各種委員会ほか

ホテルハマツ (〒963-8578福島県郡山市虎丸町3番18号)

5月13～14日 学術集会・総会ほか

ビッグパレットふくしま

(〒963-0115福島県郡山市南二丁目52番地)

テーマ：『救急医療と Mass gathering medicine』

詳細は、学術集会ホームページ (<http://www.fukushima.med.or.jp/19JSEM/>) をご参照ください。

《参加費種別》

区 分	参 加 費		多職種間意見交換会会費	
	事 前	当 日	事 前	当 日
会 員	10,000円	12,000円	2,000円	3,000円
非 会 員	14,000円	16,000円	2,000円	3,000円
学 生	3,000円	3,000円	1,000円	1,000円

※会員 日本臨床救急医学会の会員のことです。なお、日本医師会会員とは別になります。

※学生 医学生・看護学生・救急救命士民間養成施設学生など。ただし、医師以外の大学院生は「学生」扱いとさせていただきます。

また、演題発表者については会員の参加費をお支払ください。

事前参加を申し込まれた方は、メールもしくはFAXにて、学生証のコピーを下記大会事務局までお送りください。また、当日参加受付の際には学生証のご提示をお願いいたします。

〈事前参加登録〉

事前参加登録期間は2016年2月5日(金)～4月15日(金)です。

参加費用のお支払いについては、原則として銀行振り込み又はクレジットカード決済の支払いにてお願いいたします。

なお、詳細につきましてはホームページ上でご案内させていただきます。

〈登録フロー〉

- ① 学術集会ホームページ (<http://www.fukushima.med.or.jp/19JSEM/>) 「事前参加登録ページ」の「事前参加登録はこちらから」ボタンより、事前登録画面へお進みください。
- ② 登録確認画面へ進み、必要事項を入力願います。
- ③ 自動返信メールにて、登録されたメールアドレスへ参加登録の確認がごございます。また、銀行振込口座のご案内、クレジットカード決済サイトのご案内について、記載しておりますので、ご希望の支払い方法により参加費の納入をお願いいたします。

なお、2016年4月20日(木)までにお振り込み頂けない場合は、事前登録を取消致しますので予めご了承ください。

※同一メールアドレスでの登録はできません。

※団体申し込みは原則できません。事情により団体でのお申し込みをご希望の方は、お手数ですが事務局までお問い合わせ願います。

現在決まっている企画です。(変更の可能性あります)

*会長講演

- 「福島県の災害医療」〔5/13 15:00~15:40〕
第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会大会長 高谷雄三
同上 副会長 田勢長一郎

*特別講演

- 「東京2020大会を成功させるために」〔5/13 11:00~12:00〕
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
事務総長 武藤敏郎
- 「地域における救急医療」〔5/13 14:00~15:00〕
日本医師会長 横倉義武

*教育講演

- 「G2015ガイドラインをどのように運用するか (仮題)」〔5/12 11:00~12:00〕
救急救命九州研修所 畑中哲生
- 「脳死下臓器提供時の課題と展望」〔5/13 9:00~10:00〕
日本医科大学大学院医学研究科外科系救急医学分野
横田裕行
- 「ドクターヘリの総合的活用の推進—日本の救急医療の充実に向けて」
〔5/13 10:00~11:00〕
救急ヘリ病院ネットワーク会長 國松孝次
- 「これからの季節に向けた熱中症対策 (仮題)」〔5/13 15:10~16:10〕
昭和大学附属病院救急医学科 三宅康史
- 「放射線の人体への影響 (仮題)」〔5/13 12:20~13:20〕
放射線医学総合研究所 明石真言
- 「救急医療における倫理問題とその対応 (仮題)」〔5/13 14:00~15:00〕
中京大学法科大学院 稲葉一人
- 「災害医療と社会の仕組み~医療者にも分かるBCP~ (仮題)」〔5/14 13:20~14:20〕
日本政策投資銀行 蛭間芳樹
- 「大規模イベント開催時の危機管理等における消防機関のあり方 (仮題)」
〔5/14 14:30~15:30〕
総務省消防庁救急企画室救急専門官 寺谷俊康
- 「発明・革新は臨床経験から—トレミキシン開発経験から次世代手術システムへ—」
〔5/14 10:00~11:00〕
滋賀医科大学BMIC革新的医療システム開発部門 谷 徹
- 「『瞬間の顔』~明るい顔 力のある顔~」〔5/14 9:00~10:00〕
写真家 山岸 伸

- 「生体ストレスを解剖する」〔5/13 16:20~17:20〕
山形大学医学部解剖学第二講座教授 後藤 薫
- 「救急外来における血液培養採取の有用性 (仮題)」〔5/14 11:00~12:00〕
亀田総合病院感染症科臨床検査科 細川直登

*シンポジウム

1. 東京オリンピックの危機管理対応における多組織連携〔5/13 16:30~18:30〕
2. G2015と今後の展開〔5/14 13:20~14:50〕
3. 重症度と緊急度、救急疾患における緊急度の確立〔5/13 9:00~11:00〕
4. これからの被ばく医療体制のあり方〔5/13 9:00~11:00〕
5. 救急救命士の処置拡大と問題点〔5/14 15:30~17:00〕
6. 看護師業務拡大の課題と今後の方向性〔5/13 17:00~18:30〕
7. 災害医療とドクターヘリおよび航空機搬送〔5/13 15:00~16:30〕

*パネルディスカッション

1. 指導救命士の処置拡大の問題点〔5/12 12:50~14:20〕
2. 小児救急医療の課題と展望〔5/13 15:00~16:30〕
3. J A T E Cの現状及び将来への展望〔5/14 15:30~17:00〕
4. 高齢者救急の問題点と課題〔5/13 17:00~18:30〕
5. 地域医療構想と救急医療体制〔5/13 9:30~11:00〕
6. マラソンにおける Mass Gathering Medicine〔5/14 15:30~17:00〕
7. 過去の教訓から東京オリンピックに備える〔5/14 9:00~11:40〕
8. J T A Sの現状と今後の方向性〔5/14 15:30~17:00〕
9. ドクターヘリ新旧基地病院の課題と展望〔5/13 9:00~11:00〕
10. 救急医療に貢献できる薬剤師の育成について考える〔5/13 9:30~11:00〕
11. 救急医療における薬物医療情報の共有化〔5/13 13:50~15:20〕
12. 安全なモニタリング〔5/13 15:30~17:00〕
 - 1) 救急搬送時のモニタリング
 - 2) 重症ケアでのモニタリング
13. 救急初療における画像診断の進歩〔5/13 17:00~18:30〕
14. Mass Gathering Medicineにおける臨床工学技士の位置づけ〔5/13 17:00~18:30〕
15. 新たなRRSの取り組み、日本でのエビデンス作成に向けて〔5/14 13:20~14:50〕
16. 救急検査の標準化 part2~救急診療におけるパニック値を考える〔5/13 13:50~15:20〕
17. 我が国における事態対処医療〔5/14 13:20~14:50〕
18. どうする心臓蘇生を希望しない場合の救急隊の対応〔5/14 10:30~12:00〕
19. 「救急認定ソーシャルワーカー」認定資格創設に向けて〔5/14 15:30~17:00〕

*ワークショップ

1. 救急医療における超音波検査の有用性 [5/14 10:30~12:00]
2. 学校におけるBLS教育の展開例と今後の展望 [5/14 9:00~10:30]
3. 救急領域におけるビデオ喉頭鏡の現状 [5/14 9:00~10:30]

*特別企画

臨床救急医学に関連する学会との合同セッションなど。

1. 日本救急撮影技師認定機構講習会 [5/13 15:20~16:50]
2. 日本救急医学会OHCA特別委員会企画『院外心停止レジストリについての報告』
[5/13 17:30~18:30]
3. パリISテロの緊急報告 [5/14 11:00~12:00]
4. JPTECブラッシュアップ講習会 [5/14 9:00~11:00]
5. ICLS指導者養成ワークショップ ブラッシュアップセミナー [5/14 9:00~11:00]
6. 日本病院前救急救命学会 [5/14 11:00~15:20]

*国際シンポジウム

1. アジアにおける病院前救急医療の連携 [5/14 13:10~14:40]
2. Mass Gathering Medicineを支えるこれからの多職種連携
～東京オリンピック・パラリンピックを見据えながら～《市民公開講座》
[5/14 14:40~17:00]

*一般演題 (口演263題、ポスターセッション406題)

「CPA・CPR」ほか36分類の演題 [5/13 9:00~19:00 5/14 9:00~17:00]

大会事務局：第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会 事務局

〒960-8575 福島県福島市新町4番22号

一般社団法人 福島県医師会

担当：八巻・阿部(勝)・高橋

TEL 024-522-5191 / FAX 024-521-3156

Eメールアドレス：jsem19@fukushima.med.or.jp